

# ポポポ 新聞

[Ponpoko News]

第 62 号



=発行=

2016年2月21日

喜多見ポポコ会議

www.ab.auone-net.jp/~ponpoko



写真3 喜多見駅の下りホームで  
(2015.10.18 HEISANDO 撮影)



写真2 行商専用車で積み下ろし(左)



写真1 郵便荷物車の車内(左)

中世の頃、江戸は流通網の拠点の一つで、喜多見に縁があると伝わる江戸氏は、江戸を中心に水上・陸上を問わず流通網を掌握していた可能性が高いと言われています。

歴史を下り近年はトラック輸送が主体となり、製造や流通そして私達の生活もとても便利になりました。しかしトラック運転手の不足もあり、今、鉄道輸送に注目が集まっています。喜多見で鉄道といえば喜多見駅前の鉄道模型店 HEISANDOさん、お話を伺ってみました。

## 貨客混載 は懐かしくて新しい

——「PONPOKO REPORT」で都市物流は貨客混載と提案したところ、それを見てツイッターに「地下鉄にクハユ二が走ったら胸熱」と書いてくださった方がいたのですが、「クハユ二って何ですか？」



「国鉄・JRの区分で、クハ二制御車、ハ二普通車(イは1等車、ロは2等車、ハは3等車)、ユ二郵便車、ニ二荷物車、他に、コ二コンテナ車、シ二食堂車という区分もあります。クハユ二は1両に普通車・郵便車・荷物車の機能を備えた合造車でかつ運転台付き制御車輛という意味です」

### ●郵便物を車内で仕分け

「国鉄の郵便・荷物輸送は1980年代半ばに運行を終了しました(新聞輸送を除く)。郵便・荷物に関しては幹線では専用列車で、ローカル線では普通列車に間借りする形で運行することが多かったです。普通列車に間借りする場合は、専用の車輛1両分が郵便・荷物だったり、クハユ二のように1両でお客も荷物も郵便も載せるというところもありました。郵便専用車両では、駅のポストに投函された郵便物を郵便局の職員が車内で仕分けし(写真1)、各地に運んで積み下ろしていました」

合理的ですね。



「カーテンを付けて客荷分離なんでもことやりましたよ。新聞については今も旅客列車で運んでいる路線があります。都市部の鉄道に貨物のイメージは無いですが、貨物の虚構もあります。旧国鉄の駅は貨物を考えて造っているので駅構内が広いんですよ。新宿駅の高島屋、渋谷駅の埼京線ホーム、恵比寿駅のガーデンプレイス(ビールの搬出で)、品川駅の新幹線ホームは貨物駅の跡地を活用している例です。実は大手私鉄でも、荷物の専用列車や専用車両を運行している例があります」

### ●最近まであった行商専用車

「関東大震災後に千葉県から東京都へ農家が野菜や餅等を運んだ京成電鉄の野菜行商専用列車(通称:なつば電車)がありました。次第に縮小されて最後尾1両だけの専用車両になりましたが、『行商専用車』として2013年3月まで平日のみ運行していました(写真2)。駅の時刻表には、女性専用車両と並べて運行時間の案内が掲示されていましたよ」

### ●近鉄で今も走る鮮魚列車

「近畿日本鉄道(近鉄)では現在も、平日と土曜に行商しか乗ることが出来ない専用列車を運行しています。伊勢・志摩の新鮮な魚介類を大阪へ運ぶ『鮮魚列車』です」

——「そこいえば、かつては多摩川の砂利を運ぶ鉄道があったと聞きます。」

「今の東急田園都市線が玉電と言われていた当時、多摩川の砂利を都心に運んでいました」

### ●小田急線でも運んでいる

「小田急線でも喜多見駅で社内用と思われる荷物を台車で運んでいるのを見たことがあります(写真3、掲載許可済み)。混雑時間帯に貨客混載は無理だと思えますが、その時間帯を外せば可能だと思いますし、宅配便の荷物を鉄道駅で受け取れるようになるなら便利だし、ぜひ都市部で実現してほしいですね」

